

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護学生が看護技術学習時に感じる困難感に関する文献検討

猪狩菜々子 寺田風花

(指導：升田由美子 綱元亜依)

緒言

将来、看護職者として質の高い看護を提供するため、看護実践の基盤となる基礎看護技術の学習は看護学生にとって重要である¹⁾。

大学での学びの中でも特に臨地実習において学生は、知識と実践にギャップを感じ葛藤する²⁾。このギャップ自体を解消することは困難であるが、効果的な学習により、ギャップによる戸惑いを軽減することは可能だと考える。そのため、効果的な学習を検討する上で、学生が看護技術を学ぶ際に何に困難を感じているかを明らかにしたいと考えた。

本研究では臨地実習で経験することの多い基礎看護技術³⁾として療養上の世話に焦点を当て、それに関する文献検討により看護学生が基礎看護技術を学ぶ際の困難感を具体的に明らかにすることを目的とした。

用語の定義

- 1) 看護技術の学習：基礎看護技術の学内演習。
- 2) 看護技術：療養上の世話に分類される基礎看護技術。清潔の援助（清拭、陰部洗浄、入浴介助、シャワー浴、口腔ケア、更衣、洗髪、整容）、経口摂取患者への食事援助、移動・移乗の援助、排泄の援助、体位変換。
- 3) 困難感：療養上の世話に関する基礎看護技術の演習時に抱く戸惑いや難しさ。

方法

1. 研究対象：医学中央雑誌 Ver. 5 を用いて、2010～2020年5月までに掲載された原著論文を対象とした。「基礎看護技術」「演習」と「学生」「演習」「技術」「難」をキーワード検索し、各49件、72件の文献がヒットした(2020-5-29 現在)。なお、「難」は、「困難」「困難感」「難しさ」を網羅する単語として用いた。合計121件のうち、タイトル又は抄録から研究対象が看護学生で、本研究が対象とする看護技術の学習に関する研究であることが確認できた33件を精読し、本研究の目的に沿った7件を文献検討の対象とした。
2. 分析方法：グレッグ⁴⁾らの方法を参考とし、学生の困難感を表現した記述部分をコードとした。それを内容の類似性に従いサブカテゴリー化し、さらに抽象度を上げてカテゴリー化した。2名の研究者で対象文献を熟読し、結果の妥当性を高めるためにコードの解釈、カテゴリー名等について指導教員2名から随時スーパーバイズを受けた。

3. 倫理的配慮：本研究は先行研究に基づく文献検討である。著作権の範囲内で複写を行い、出典を明示し、その引用方法に留意した上で、論文中の表記方法に従うものとした。

結果

分析の結果、66コード、21サブカテゴリー、9カテゴリーが抽出された。その結果を表1に示す。以下、コードを〔 〕、サブカテゴリーを〈 〉、カテゴリーを【 】で示す。

表1 看護学生が看護技術学習時に感じる困難感

カテゴリー	サブカテゴリー(コード数)
1. 実施中のコミュニケーションの難しさ	患者への説明の難しさ(5)
	患者とのコミュニケーションの難しさ(3)
2. 患者の個々の心身の状況に合わせた援助の難しさ	患者の心理・プライバシーを尊重した実施の難しさ(4)
	患者に適した方法を選択することの難しさ(8)
3. 実際の援助を通して気づいたイメージ通りにできない難しさ	実際に援助した際の難しさ(3)
	頭の中でイメージした通りに援助することの難しさ(3)
	全体の流れを意識した援助の難しさ(3)
4. 他者に実施することで感じる困難感	複数のことを同時に実施する難しさ(2)
	他者に実施することの難しさ(3)
5. 援助しながら観察することの難しさ	手技自体の難しさ(2)
	援助しながら患者の状態を観察することの難しさ(3)
6. 患者と援助者の位置関係の難しさ	援助しながら患者の付属物を観察することの難しさ(3)
	援助者の立ち位置の難しさ(2)
7. 手際よく援助を行うことの難しさ	無駄なく援助することの難しさ(2)
	適切な時間で援助することの難しさ(3)
8. 物品の配置・扱いの難しさ	物品の準備や配置の難しさ(4)
	道具の使い方の難しさ(4)
9. 快適で安全な援助を行うことの難しさ	ベッド操作の難しさ(2)
	湯温の調整の難しさ(2)
	力加減の難しさ(2)
	患者の安全・安楽を配慮した援助の難しさ(3)

考察

I. コミュニケーションの難しさ

【1. 実施中のコミュニケーションの難しさ】には「理解してもらえない説明をすることが難しい」「どのように声をかければよいのかが難しい」等のコードが含まれており、看護援助経験の浅さにより適切な説明・声かけができていないか自信を持っていないことが困難感につながっていると考えられる。看護におけるコミュニケーションは患者を統合的に理解し、支援するために必須であり、看護

の基本となる重要な技術である⁵⁾。コミュニケーションの難しさを報告している研究は、初学者対象に限らず、高学年や看護師が対象のものを含めて多数ある⁶⁾⁷⁾。初学者と熟練者では困難感の内容は異なるものの、経験値に関係なくコミュニケーションの難しさは存在する。よって、初学者が困難感を抱くことは必然である。自身のコミュニケーションを振り返り、課題を明確にすることがその技術の向上につながると考える。

II. 初学者の特徴

【2. 患者の個々の心身の状況に合わせた援助の難しさ】【3. 実際の援助を通して気づいたイメージ通りにできない難しさ】【4. 他者に実施することで感じる困難感】【7. 手際よく援助を行うことの難しさ】【8. 物品の配置・扱いの難しさ】より、患者の個別性を踏まえた計画立案及びイメージ通りに実施することの難しさが現れていた。要因として、慣れない援助により無駄な動作が多くなること、複数の技術を同時に行うことが挙げられる。これらの難しさは援助実施経験の浅さが影響しており初学者に特徴的な困難感だと考えられるため、反復した練習により経験を積むことが必要である。

III. 実習とのギャップにつながる難しさ

【5. 援助しながら観察することの難しさ】【6. 患者と援助者の位置関係の難しさ】【8. 物品の配置・扱いの難しさ】で挙げられた困難感は臨地実習での困難感と共通すると考える。慣れない実施に加えて多くの観察を求められること、学内と病院の使用物品が異なることなどのギャップは学生にとって実習での大きな困難感につながる⁸⁾。実習で個別性のある看護が求められる中でギャップの軽減を図るには、より実践的な方法で技術を習得することが効果的だと考える。単に教科書に記載されている方法を覚えるのではなく、その原理原則を理解し、さらに対象や場、使用できる物品に適した方法を選択できる応用力を養うことがギャップによる戸惑いの軽減につながる。そのため、教科書に基づく基礎的技術を十分に習得すると共に実習では臨床での方法を把握するために実習指導者からの助言を求めることが必要だと考える。

また、学内演習では学生同士で患者役を演じ実施するが、患者理解が乏しく設定された患者の再現度が低い。それゆえ、実習での実施にギャップを感じることも稀ではない⁹⁾。ギャップの軽減には、学内演習において学生がより現実味のある患者役を演じる努力も必要だと考える。

IV. 感情・個別性を持つ“人”を対象とする難しさ

〔患者の個別性に応じた援助をすることが難しい〕(カテゴリー2)、〔観察をしながら行為をすることが難しい〕(カテゴリー5)、〔患者の安全・安楽への配慮が難しい〕(カテゴリー9)といったコー

ドには、人を対象とする看護援助の難しさが現れていた。看護の対象は、感情・個別性をもつ“人”である¹⁰⁾。看護学生は学習初期から患者の個別性を捉え、適した方法で援助をすることを学ぶ。初学者は手技に目が向き、それに集中してしまう傾向がある。とはいえ、初めての看護技術の実施でも患者にとって快適な援助を目指して表情や援助による影響等多くの観察を行い、安全・安楽な実施に努める。このように、学習したばかりの技術を行う難しさだけでなく、同時に患者の感情や援助による効果を意識する必要があることに難しさを感じると考える。

結論

学習の困難感是谁もが感じるものであり、それを乗り越える過程が成長につながる。十分な基礎的技術の習得が患者の個別性に合わせた応用力の高い看護の提供を実現する。

引用・参考文献

- 1) 茂野香おる: 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学②, 第 15 版, 14-15, 医学書院, 2011.
- 2) 香川秀太: 看護学生の越境と葛藤に伴う教科書の「第三の意味」の発達-学内学習-臨地実習間の緊張関係への状況論的アプローチ-, 教育心理学研究 60(2): 167-185, 2012.
- 3) 久藤克子: 臨地実習における看護学生による看護行為の正当化根拠, 岡山県立大学保健福祉学部紀要 18(1): 45-53, 2011.
- 4) グレック美鈴, 麻原きよみ編: よくわかる質的研究の進め方・まとめ方, 第 2 版, 74-78, 医歯薬出版, 2016.
- 5) 徳田順子: 新人看護師研修にコミュニケーションの研修を取り入れて-自己の会話の傾向に気づき、聴くこと・話すことができる新人に-, 看護 64(5): 44-47, 2012.
- 6) 長田艶子: 成人看護実習におけるコミュニケーション技術-マルチベースラインによる自己評価導入の効果-, 大阪府立大学看護学部紀要 12(1): 49-57, 2006.
- 7) 坂下恵美子, 大川百合子, 他: 新人看護職員研修における終末期がん患者の看取り教育の検討, 南九州看護研究誌 16(1): 1-9, 2018.
- 8) 前掲書 3)
- 9) 川島美佐子, 富山美佳子, 他: 基礎看護学実習前の模擬患者(SP)演習に関する研究(第 1 法)-基本的コミュニケーション行動への効果-, 足利大学看護学研究紀要 7(1): 23-34, 2019.
- 10) 小山真理子編: 看護学基礎テキスト第 2 巻看護の対象, 2-4, 日本看護協会出版会, 2011.

対象文献

- (1) 伊藤萌子, 富澤理恵, 他: シミュレーション教育を用いた基礎看護技術演習の評価, 千里金蘭大学紀要 12: 51-59, 2015.
- (2) 山本智恵子, 吉田美穂, 他: 基礎看護技術における食事援助に関する学生の学び, 新見公立大学紀要 36: 95-100, 2015.
- (3) 小林廣美, 佐藤静代: 事例を取り入れた基礎看護技術演習で学生が感じたこと-自分達で考える演習を通して-, 兵庫大学論集 16: 57-63, 2011.
- (4) 南雲美代子, 高橋直美, 他: ストレッチャー・ベッド移動の演習における学生の体験からの学び, 山形保健医療研究 19: 9-18, 2016.
- (5) 藤尾麻衣子, 藤谷章恵, 他: A 大学看護学部の学生が技術習得において抱えている「困難」-一時的導尿と就床患者の全身清拭に焦点をあてて-, 武蔵野大学看護学研究紀要 9: 19-28, 2015.
- (6) 遠藤順子, 澁谷恵子, 他: 看護基礎教育における模擬患者を活用した教育効果の検討-口腔ケア演習を通して(第 2 報)-, 新潟青陵学会誌 5(3): 31-40, 2013.
- (7) 泉貴子, 下村裕子, 他: 周手術期患者の寝衣交換に関する技術演習の教授方法の検討-ロールプレイングを改善するための基礎調査-, 日本赤十字看護大学紀要 26: 39-50, 2012.